

使用済みトナーカートリッジ回収で建設資金

カンボジアの子供に 校舎1棟プレゼント

京都のベンチャー企業

カンボジアの子供たちに文房具類を贈ってきたオフィス用品販売のカスタネット（京都市、植木力社長）は、今度、朽ち果てた校舎で勉強をしている現地の小学生のために、使用済みトナーカートリッジを回収してできた資金で校舎を一棟プレゼントすることにした。

新校舎の建設予定地は首都プノンペンから北方百キロの農村地帯にあるトレア小学校。木造平屋建てで六教室を設ける。

生徒数は四百二十人（六学年十クラス）。六教室と二仮設教室があるが、老朽化が進みトタン屋根からは雨漏りが激しくトイレもないため衛生面も悪く、新校舎の建設の要望が強かった。

建設資金の三百五十万円は一切寄付を募らず、レーザープリンターの使用済みトナーカートリッジを無料回収し、リサイクルトナー製造会社に売却した利益を充てる。

トナーカートリッジの回収には立命館大の学生四人が協力。資金集めには一年かける予定で、カンボジアやベトナムなどで農業振興、人材育成などをやっている国際開発救援財団に資金を託し校舎を建設してもらう。



今にも倒壊寸前のカンボジアの小学校

同社は半導体製造装置メーカー、大日本スクリーン製造の社内ベンチャー支援制度で設立された企業。植木社長は「新しいビジネスモデルで環境、社会問題を解決しながら事業を行うソーシャルベンチャーを日本に根付かせる第一歩にした」と語っている。